

W G 報 告

天文普及の調査 WG の発足

Report of Astronomical spread research working group

天文普及の調査 WG 代表 飯塚 礼子（明星大学）

Summary

Report of Astronomical spread research WG conducted a questionnaire survey at the 2019 annual meeting. The questionnaire is being compiled and the results will be reported at a later date. Here, I will describe what is a dissemination activity.

1. はじめに

天文普及の調査 WG は 2018 年 9 月に承認をいただき、現在メンバー 8 名で天文普及の調査を行うために、準備をしている。第一弾として調査対象を 2019 年日本天文教育普及研究会年会出席者にてアンケート調査を行なった。アンケートの項目は図 1 に示すとおりで、現在集計中であり、結果は後日報告させていただく。さて、普及活動とは何かとの問いに参考になる事項として、年会にて発表を行ったので、その報告をここでは述べる。

2. 分野別天文教育・普及活動

当会において天文教育・普及活動は、それぞれの会員の立ち位置や会員が登録している分野にでもわかる。その対象者も活動を行う者によって変わる。既に承知していることであろうが、ここに改めて記載する。

表 1 分野別天文教育・普及活動

分野別	教育・普及者の立場	教育・普及の対象者	教育・普及場所	教育 or 普及目的
一般分野	・天文愛好家 ・天文好き ・天文ボランティア	・一般の方 ・地域の住民や子ども	・地域の観望会施設 ・地域の学校 ・その他色々	・普及の面が大きい
学校教育	・教員・教師	・児童・生徒・学生	学校	・教育面が大きい
社会教育施設	・科学館、博物館、プラネタリウム館、公開天文台等の従事者	・一般来館者 ・学校の授業として来館する子どもたち	それぞれの施設出張観望会	・普及と教育の両方

3. 専門分野としての普及活動

普及活動を行う専門家として、農林水産省では普及指導員（国家資格）、応急手当普及員（公的資格）、将棋普及指導員（公益社団法人 日本将棋連盟）があることが解かった。天文においては、星のソムリエ（星空案内人資格認定制度）、天文宇宙検定、星空宇宙天文検定（星検）がある。普及活動を行っている方々のモチベーションは何なのか、そもそも天文普及は必要なのかとの自己の疑問を含めて、当 WG として更に調査を続けて行く。

図 1 年会でのアンケート用紙

若手会員獲得に向けた「天文・天体物理若手 夏の学校」での広報活動 ～全国選出代議員としての活動報告～

津村耕司（東京都市大学）

PR activity at “Summer School of Young Society in Astronomy and Astrophysics” for acquisition of young members

～An activity report as a JSEPA nationwide representative～

Kohji Tsumura (Tokyo City University)

Abstract

I introduce my PR activity at the “Summer School of Young Society in Astronomy and Astrophysics” for acquisition of young member in August 1st 2019 as an activity by a JSEPA nationwide representative.

1. 全国選出代議員としての若手会員獲得のための活動

津村は日本天文教育普及研究会の全国代議員としての活動目標として「若手会員の獲得」を掲げている。そのための具体的な活動として、「天文・天体物理若手の会 夏の学校」に対して継続的な資金援助を行うことで、若手に対しての知名度向上を提案し、それを実行したので報告する。

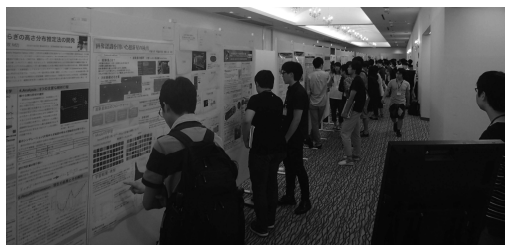
2. 「天文・天体物理若手の会 夏の学校」について

「天文学・宇宙物理若手の会」とは、天文学を学ぶ全国の大学院生が所属する団体であり、天文業界の若手を代表する機関と認識されている。若手の会は毎年夏に「夏の学校」を開催しており、全国から 300 名以上の大学院生が集う。今年は 49 回目であり、7/30-8/2 の期間にロワジュールホテル豊橋にて開催された。

3. 行った広報活動

まず「夏の学校」への資金援助として、本会の予算から 10 万円を援助した。額の根拠は、他の支援団体(光学赤外線天文連絡会)の支援額を参考にした。この金額が適切かどうかはこれからの議論が必要であるが、こういう支援は継続性が重要であると考え、数年間継続した上で、若手会員獲得に対する費用対効果を検討して、継続するかを決めるのが良いと考える。

資金援助の見返りとして、夏の学校で本会の広報活動を実施した。具体的には (1) 参加者全員の前で津村が天文教育・アウトリーチに関する講演を実施、(2) 会場で『天文教育』『天文教育研究会集録集』を自由閲覧(希望者は持ち帰り可)、(3) 本研究会のチラシを配布、である。(1) については、本会の宣伝に加え、若手がアウトリーチを行うことの意義について講演した。(2) については、持ち込んだ冊子の多くは学生に持ち帰られ、特に集録の方が人気であった。



図「夏の学校」のポスター会場の様子(左)と広報活動を行った会場の様子(右)